

在宅医療・介護連携 推進事業

医療と介護が連携して、地域住民の療養や生活を支援する取り組みを行っています。

ご自由にお取り下さい

第3弾!

ふら平さん サポート大作戦!

行田市在住のふら平さん一家の30年後。だいふ体が不自由になってきているふら平さんを支えるために、医療・介護の専門職がどのように関わっていくのかをご紹介します。

30年後(2048年)のふら平とぜに子

ぜに子(78)

体の問題はない。軽い物忘れあり。大きな病気はなく、ふら平の身の回りの世話をしている。60才から始めたお花の教室を自宅で開催している。

ふら平(83)

脳梗塞の後遺症、肺気腫。78才の時に軽い脳梗塞を患い、進行性の肺がんもある。肺の病気のため、動く息が切れ、寝たり起きたり。「わしゃ家で死にたい」と言っている。



第5号誌

2019年 [制作・発行]

- 行田市在宅医療・介護連携推進協議会
- 行田市高齢者福祉課地域包括ケア担当

TEL.048-556-1111
(内線 338-278)



様々なサービス等を利用して、ふら平さん一家を支えています。

家に来てもらって
サービスを受ける



- 在宅往診医
- 訪問歯科診療
- 訪問看護
- 訪問薬剤指導
- **訪問リハビリ**
- 訪問入浴
- ホームヘルパー(訪問介護)

通いでリハビリや
サービスを受ける



- **デイケア**
(通所リハビリ)
- デイサービス
(通所介護)

泊まりでの
介護や入院など



- ショートステイ
[短期入所生活介護
短期入所療養介護]
- 病院

様々な
相談をする



- ケアマネジャー
- 地域包括支援センター
- 在宅医療支援センター



今回は“訪問リハビリ”と
“デイケア(通所リハビリ)”に注目してみましょう。

住み慣れた自宅での生活を希望するふら平さんを支えるために…

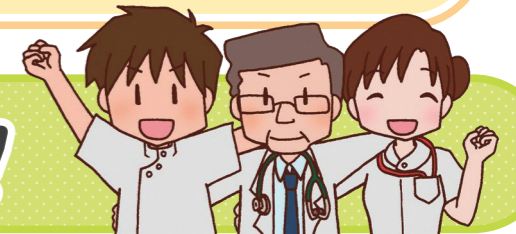
30年後のふら平さん(83歳)

脳梗塞の後遺症、肺気腫。
78歳の時に軽い脳梗塞を患い、進行性の肺がんもある。
動くと息が切れ、寝たり起きたりの生活。



自宅での生活を長く続けてもらいたいから、
リハビリをさせたいけど、家から出るのは大変だし…
でもリハビリだけじゃなくて、外の人との交流も
持ってもらいたいけど、どうしたらいいのかしら…?

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がサポートします!



リハビリの専門職がご自宅に伺い、 様々な支援を行います。

その人が今までの生活が続けられるように、ご自宅に伺い、リハビリの立場から指導します。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が健康状態を把握した上で、体の動きやご家庭・家屋の様子を見て、本人・ご家族への直接指導と関連職種への助言をします。

このような方が利用できます

- 通院ができない方や退院直後で生活に不安が残る方
(小児から高齢者まで、難病、がん、精神疾患等)



こんなことができます

身体機能の向上の他、食事・排泄・料理や掃除などの生活動作や就労復帰・地域活動・趣味などに対するリハビリを行います。
実際に電車やバスに乗車したり、料理や買物などの練習を利用者様と一緒にいる場合もあります。

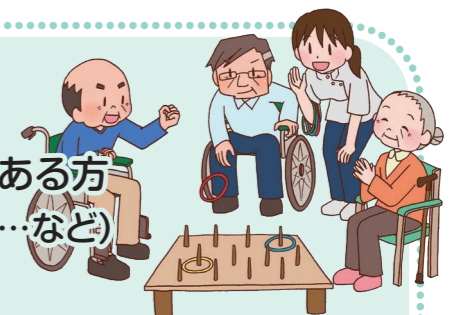


施設に通いリハビリをしながら、 様々な人と交流を持ちます。

施設に通い、その方の目標に沿って理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がリハビリを行います。また、看護師等が健康状態の確認、観察を行い、介護福祉士が生活動作を補助、支援します。その他、入浴や集団体操、レクリエーション等に参加することにより、さまざまな人と交流することができます。(短時間でのご利用の場合はリハビリのみの場合あり)

このような方が利用できます

- 身体機能の低下がみられ自宅での生活に不安がある方
(トイレに歩いていくのが不安、よく転ぶようになった…など)
- ご自分の目標に向かって訓練を受けたい方
(また趣味ができるようになりたい、買物に行けるようになりたい…など)



こんなことができます

- 健康状態の確認・観察
- 入浴
- 機能訓練
- 自主練メニューの考案
- 体操
- レクリエーション
- 福祉用具の選定
- 社会参加支援



など

利用を希望される方、お問い合わせ等については、
主治医 または 在宅医療支援センター までご相談ください。

TEL.048-553-2003

次回

“ホームヘルパー(訪問介護)”と
“訪問入浴”についてご紹介します。



「わたしの人生ファイル」 の配布が始まりました!

行田人第4号誌でも紹介いたしました「わたしの人生ファイル」の配布が10月から始まりました。このファイルはご本人の生活や身体状況、これからの人生をどうしたいかがおさめられる大切な一冊です。このファイルを手にしてご本人、ご家族、医療・介護の専門職が連携し「笑顔でゆくために」より良い支援に繋げて頂ければ幸いです。

- 【配布対象者】 在宅での介護、療養を希望され、介護保険で概ね要支援以上の認定を受けたファイルを活用できる方。
 - 【配布方法】 ファイルを希望する本人、家族または、担当ケアマネジャーが、配布場所となっている市役所高齢者福祉課、地域包括支援センター4カ所にてファイルを受け取ってください。
- 患者情報共有 / ICT部会

研修部会 (ふらっと) 研修報告

行田市在宅医療・介護連携推進事業は今、熱い!

7月11日、行田市在宅医療・介護連携推進協議会の研修部会「ふらっと」が企画した研修会が、行田市商工センターにて開催されました。医療、介護の現場で働く皆さんにより多く参加して頂けるようにと2部制で行われ、市内の医療・介護にかかわる14の職種団体や法人、35か所の事業所から、昼の部99名、夜の部100名ご参加頂き、今回は消防署からもたくさんの方にご参加頂きました。

研修内容は、「ふらっと」と当協議会委員で制作したビデオをもとに、

- ①介護保険を知る (申請から担当者会議を経て利用)
- ②「わたしの人生ファイル」の紹介
- ③MCS* (メディカルケアステーション) 導入法

*医療・介護関係者の多職種連携をスムーズに行うための情報ツール

を大きなテーマとして進め、グループワークやロールプレイングにて他職種の役割を演じ「連携」の必要性について理解を深めました。

「退院後、これ程多くの職種が介護に関わっているのかとびっくりした」「改めて、色々な職種の大切さ、大変さが理解できた」などの感想が寄せられました。1回の研修で11グループに分かれてグループワークを行いました。どのグループも和気あいあいの中、活発な意見交換が行われ、行田市内で働く医療・介護事業所みなさんのケアに込めた熱い思い・活気が伝わってきました。

壮幸会 行田訪問看護ステーション 馬渡 夏美



「行田人 (ぎょうたびと)」は、市内医療機関、歯科医院、薬局、介護事業所、市役所窓口等で配布しております。ご希望の方は各機関の窓口にてお申し出ください。

